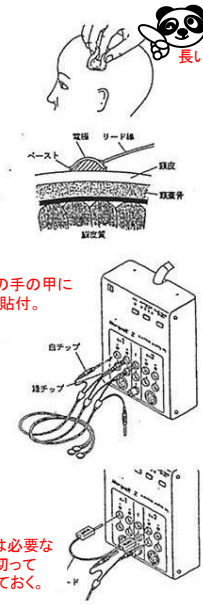


電極がOKかは生理食塩水又は水に全ての電極をつけてほぼ一直線になるかをチェックする。これはあまり必要ないとのこと。

- 装着方法
1. 電極取付け部の皮膚および毛髪の付根をアルコールを含ませた綿などで良くこすり、頭皮の脂肪分を浮かせてからガーゼでふき取ります。当社製のスキニピア(YZ-0020)を適量取り、カット綿などで装着部の皮膚をこすると、角質層を取り除くことができ、安定した記録が可能となります。なお、こすった後は、ガーゼで拭き取ってください。
 2. その部位にエレフィックスを直径10mm以下の範囲で擦り込むように塗ります。このとき、塗布面をあまり広げないようにしてください。
 3. エレフィックスを電極の凹部に満たし、電極装着部に貼り合わせるように載せます。
 4. さらに、薄い脱脂綿の小片で電極上を覆い、軽く周りを押さえます。
 5. 導出電極、基準電極の白チップは+または-の端子へ、緑チップはS(シールド)端子へ接続します。接地電極は白チップをB端子に接続し、緑チップは遊ばせておきます。テープで電極を固定する。コードを束ねて近傍に固定する。



長い髪の方が束ねて留められるので電極がつけやすい。

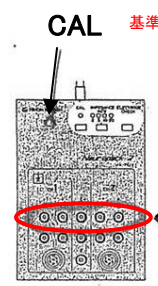
テープは必要な数だけ切って、検者の手の甲に貼付しておく。

【注】検査の種類によっては、1、2チャンネルの+または-端子をショートする方法がとられます。この場合は、電極セット内のショートリードを使用してください。

コンタクトレンズ電極の使用中は、インピーダンスチェックを行わないでください。インピーダンスチェック時は、電極装着部に電流を流すため大変危険です。

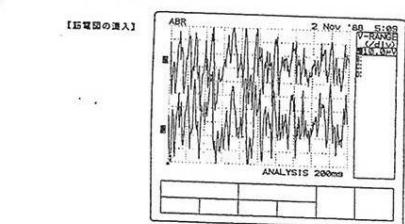
注意 針電極を刺入した状態でインピーダンスチェックを行わないでください。

- 電極の装着を終えたら、記録電極と皮膚間の電気抵抗値を計測します。抵抗値が高いとアーチファクトが混入し測定不能となる場合もあります。測定を始める前に必ずインピーダンスチェックを行ってください。
1. 電極接続箱のIMPEDANCE キーを押して比較値を選択します。
 2. ELECTRODE CHECK キーを押します。装置は自動的に CH1→CH1⊕→CH2⊖→CH2⊕の順でチェックを繰り返します。チェックの結果は、⊕端子および⊖端子上のLEDの色で表示します。
緑色：閾値以下
黄色：閾値以上
 3. ELECTRODE CHECK キーを再度押すと、チェックを停止します。
- *すべての電極が5kΩ以下で、電極間で抵抗値のばらつきが少ないのが理想的です。電極間の差は3kΩ以下



CAL 基準目盛りの大きさが波形として出る

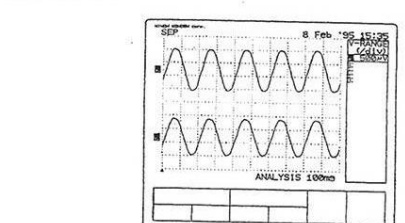
身体揺動・その他測定室のノイズ



よく見られるアーチファクトの原因	対 策
筋電図の混入 特に誘発検査時に、首、あごの筋電図	被検者をリラックスさせる。必要に応じて頭部を固定し、軽く口をあけさせる。
心電図の混入	被検者の首をゆっくり回していき、心電図の消える位置が見つかることが多い。
刺激のアーチファクト	接地電極の水分と装着位置のチェック(必ず刺激と記録の間に装着する)
電極コードの揺れ	テープ等で近くに固定する。(刺激と記録のコードどうしを充分に離す。)

*原因不明のノイズに対して、装置の Stim rate (刺激の繰返し周波数) の必要が加算結果のノイズに対して有効な場合があります。

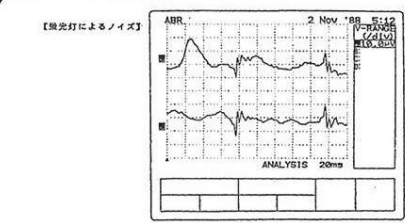
ハムの混入



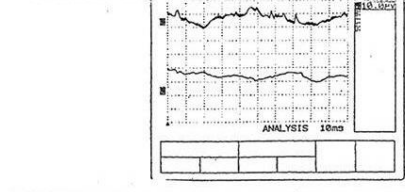
*50Hzあるいは60Hzの正弦波状のノイズが入る場合

考えられる原因	対 策
患者の接地電極が電極接続箱に接続されていない	接地電極を電極接続箱に正しく接続する。
患者の座っている椅子やベッドが接地されていない	椅子やベッドを確実に接地する。
機器や患者のすぐ近くにコンセント、電源コード、スイッチボックス、配電盤がある	ハムの原因となる機器を正しく接地する。または、患者から遠ざける。
電気毛布、ヒータを使用している	電気毛布、ヒータを使用しない。または、患者から遠ざける。

蛍光灯・その他の機器によるノイズ



CRTによるノイズ



よく見られるアーチファクトの原因	対 策
近くに蛍光灯がある	遠ざける、または消灯する。
CRTからの放射ノイズ	CRTの向きを変える、または遠ざける。電極のコードを束ねる。
レントゲン設備が近い(大電力を使用する設備の隣室等)	測定室を移す。

- 消毒法
滅菌の必要はありませんが、清潔にしておくために、水道水や逆性石ケンなどを含ませた布で拭いてください。
- 取扱上の注意
1. ペーストを付けて使用した表面電極は、使用后、流水にしばらく浸して置いてから静かに洗ってください。ペーストが付いたままにしておきますと固まってしまい、取りにくくなります。
 2. 電極を被検者からはずすときは、電極部を持ってはずしてください。リード線部分を強く引っ張ったり、無理に曲げると、断線の原因となります。
 3. 使用時に不良と思われる電極は、テストなどで導通をチェックして、断線などが考えられる場合は処分してください。修理はできません。
 4. リード線部の清拭は、水またはぬるま湯などで行ってください。アルコールによる清拭はビニールの硬化を招きます。

- 消毒法 コンタクトレンズ
使用后、オスバン液、ヒビテン液、逆性石ケンなどでよく洗い、さらに水道水でよく洗ってから乾燥させ、保存してください。アルコール、ベンジンなどで洗うと、レンズが変形する恐れがありますから避けてください。